

園のおたより



第 3 号

令和 4 年 6 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

差別をしない

園長 小倉 康

6月16日に開催した本年1回目の公開保育研究会には、公立、私立の幼稚園や保育所等から、大勢の先生方に来園いただき、保育や環境を参観いただきました。参加者アンケートでは、園児たちがそれぞれ園内を自由に動きながらのびのびと遊ぶ様子や、穏やかに子どもに寄り添う教員の姿に感銘を受け、とても参考になったとの声を多くいただきました。来園者を誘って一緒に遊ぶ様子も見られるなど、子ども達は見知らぬたくさんの方の大人に対して怖がったり恥ずかしがったりすることなく、普段と変わらない時間を過ごしているようでした。

私はこのことが、本園の子ども達のとても大切な育ちの姿だと思っています。どの先生も、保護者も、来園者も、温かく接してくれ、いつでも守ってくれる安心感に包まれながら、誰とも壁を造らず、楽しく遊べる人間性が育まれていると思うのです。

でも、世の中には敵がいて、いつ襲われるかわからないから、しっかりと壁を造って護らなくては行けないと、大人は子どもに教えるのです。そのためいつの間にか、仲間と敵、近寄っていい人と良くない人、普通の人と変わった人など、差別的に人を見るようになり、多様な性の存在、障害の有無、人種の違い、社会的なステータスや貧富の差、住む国の違い、などに対して壁を造り、度々差別的な見方や言動をするようになるのではないのでしょうか。

本園の子ども達は、面白い遊びを見つけて他人を誘ったり、他人の遊びに加わったりして、人と一緒に遊ぶことが楽しいことなんだということを日々体験しています。遊ぶことに、メリットやデメリットといった損得勘定は関係ありません。楽しく過ごすことが共通の目的です。そうした日常が、人との間に壁を造らない人格を形成し、「差別をしない人」の基盤を培っていくものと思われまます。

私たち大人も、子ども達の楽しく遊ぼうよと無邪気に人を誘う純真さから、分け隔てなく人と関わることの大切さを再認識し、人間関係を豊かにして「差別のない社会」に近づくよう努めましょう。

SDGs 目標 10「人や国の不平等をなくそう」



〈砂遊び〉の魅力

1988年に発行され、1990年に日本語訳されたロバート・フルガムの著『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』という本があります。私も大学生時代にこの本と出会い、いろいろなことを学びました。題名だけ見ると、砂遊びの大切さが書かれているようにも見えますが、実際には、幼児期の体験がいかにその後の人生において重要であるかということを中心に書かれたエッセイです。題名には、幼稚園を代表するものとして「砂場」が選ばれたのかもしれませんが。

その「砂場」は、幼稚園の中で大切にしている保育環境の一つです。そこで展開される「砂遊び」には、多様な体験が含まれており、大きく5つの面から育ちを考えることができます。①「科学性の芽生え」が生まれること、②「イメージと造形」が豊かになること、③「安定感・解放感・充実感」をもつことができること、④「人間関係」を築くこと、⑤「言葉」を育むことの5つです。

①科学性の芽生え： 砂を手の中での固めるなど直接関わりながら、砂の性質を知っていきます。砂に水を流す遊びを試行錯誤する中では、性質を水との関係で気付いていきます。砂のお団子の数、山の高さ、掘る傾きや幅など、数量に関わる体験もしています。

②イメージと造形： 砂を盛って「山」、砂に水を流して「川」など、自然をイメージして見立てることがあります。草花と合わせた「料理」、木片と合わせた「線路・電車」の見立て方もあります。砂で作る遊びは、常に形が変化し、作品として残ることもありません。そこに面白さがあります。

③安定感・解放感・充実感： 入園や進級時の保育では、子ども達が安定感をもったり解放感を味わったりすることを大切にしていますが、砂遊びは、それを実現できる遊びの一つです。また、どのクラスでも、何かの目的を果たそうと考えながら砂遊びに取り組むことが、充実感に繋がります。

④人間関係： どちらの山が大きくなるか比べたり、穴の深さを競ったりなど、砂場は友達との関係を築く場にもなっています。砂に長く水を流そうとアイデアを出し合う遊びでは、友達関係の育ちを背景にして、遊びが充実していきます。

⑤言葉： 砂の性質に関する気付きや、砂で作るイメージを、友達や先生に伝える姿があります。①～④を繋ぐ視点として、言葉の育ちが位置づいています。

幼稚園での砂遊び…、体いっぱいその面白さを感じている子ども達…、この時期の姿を大切に過ごしていきたいと思います。

(副園長)





1くみ



「雨の日も楽しいね」

6月に入り、登園するまでは雨だったのに園についたら晴れたり、反対に登園して遊んでいたら雨が降ってきたり、一日中雨だったり、天候が不安定な日が見られるようになりました。今までは、天気の良い日が多く、1組みんなは園庭を走ったり、ブランコや登り棒をしたり、砂場で遊んだり、戸外の空気や太陽を感じながら気持ちよく遊んできました。しかし、雨が降ると園庭には出られません。“傘を差したら遊べるんじゃないか”、“長靴とカッパを身に着けたら！”と、どうしたら外で遊べるのかを真剣に考える姿もありました。何か部屋の中で1組が楽しく過ごせることはないだろうかと考えていると、「お家で粘土をしているんだ」という話を子ども達から聞くことができました。そこで朝、小麦粉粘土を子ども達のカバンと帽子をかけるロッカーの上に置いておいてみました。「先生、あれはなに？」と、ロッカーの上の白くて丸いものに気が付いた一人が尋ねてきたので、「これは、小麦粉の粘土だよ」と伝えました。近くで着替えや持ち物をしまっていた人達も気がついて「やってみたい！」とわくわくする声が上がりました。一人一人丸く分け、トレーの上でこねたり、ちぎったり、丸めたり、思い思いに粘土に触ります。「冷たいね」「なんだかいいにおいがするね」「こんなにたくさん（小さいお団子が）できた」と、普段触っている砂や泥、のりとは違うペタペタとする感触や小麦粉の匂い、冷蔵庫で冷やしていた冷たさなど、様々な感覚を使って楽しむ姿が見られています。

また、晴れの日だけでなく雨の日もテラスに机を出したり、積み木の電車を走らせたり、外の空気を感じながら過ごしています。急に風が吹いてきた雨の日に、コブシの葉が大きく揺れ、ザァと音を鳴らし雨粒を落とすのを見て、1組が「わあ！雨がたくさん降ってきたね」と感動する瞬間を見ました。雨粒が落ちる、大人から見ると風が吹いたからだなと思う現象を、こんなにも喜んで伝えてくれる豊かな感性に嬉しくなりました。

まだ不安定な天候が続きそうですが、1組と季節を感じながら楽しく過ごしていきたいと思います。



2くみ



「お話の時間」

6月は遠足から始まり、2組の人たちにとっては、いろいろな体験が重なったひと月となりました。初めて学級のみならず園外で活動した別所沼公園への遠足では、一週間ほど前から、当日を楽しみにして、「おやつは何にしようかな」「別所沼公園は遠いの？」とたくさん話題に上がっていました。当日は園外のいろいろな環境が目新しく映った様子で、みんな目を輝かせていました。帰り道では、疲れた様子もありましたが、最後まで自分の足で歩いたことに達成感を感じている様子でした。

さて、2組では一日の終わりにみんなでお話をする時間をもつようにしています。着替えを済ませて、お迎えを待つまでの時間は、みんなで歌を歌ったり、絵本や紙芝居を見たりして、ゆったりと過ごす時間になっています。その中で、その日にあった印象的な出来事や、新しく見つけた面白い遊び、困ったことなどをみんなで共有します。「話し合い」とは違うかもしれませんが、30人で共通の話題にしています。例えば、空き箱が材料棚に加わった時には、遊びの中で「箱がすぐになくなっちゃう」という声が上がったことから、その日の降園時に話題にしました。すると、「お家から持ってくればいいんじゃない？」と話をしてくれる人がいました。他の人も「そうだね!」「家に箱あるかな？」と自分なりの考えを話す姿がありました。また、声は発さなくてもよく友達の声に耳を傾けていたり、表情を見ると、納得したり、嬉しそうな顔をしたりする人もいて、それぞれの人が自分なりの形で、お話の時間に加わっています。幼稚園での生活は、正に子どもたち自身の生活なので、その生活をよりよくしていくために自分たちでアイデアを出し合う機会を大切にしていきたいと考えています。

2組のみんなは友達の話をよく聞いたり、聞いた話を自分のことのようにとらえて、一生懸命に考えたりする姿があります。そんな中でも「自分も話をしたいんだ」と感じることで、学級の中で繋がりを感じたり、自分なりに友達に関わったりしていくきっかけになればと考えています。



3くみ

「ぼくたちのおしごと」



進級して2か月が経ち、3組での生活として、これまで子どもたちが自分達で気付いて行っていたことを紹介し、グループごとに当番の仕事を始めました。

「お弁当の準備」「中（保育室）のパトロール」「外（園庭）のパトロール」「野菜の水やり」「サツマイモの水やり」の5つを当番の仕事として子どもたちと行っています。「今日のお仕事はなんだろう」と、自分の役割があることに責任をもち、はりきって当番の仕事に取り組んでいます。特に、野菜当番の時には、大きくなっていることが楽しみなようで、「先生、これ食べられそうだよ」と嬉しそうな当番の声が聞こえてきます。

当番の仕事が始まったばかりの頃、サツマイモを植えてから初めてみんなで自然観察園へ様子を見に行きました。畑にはサツマイモだけでなく、草がたくさん生えていました。たくさんの草に苦戦しながらも、サツマイモが大きくなるためにみんなで草取りをして、畑をきれいにしました。すると、野菜が大きくなるためには水やりだけでは足りないことに気付く人が現れ、野菜当番でも草取りをすることになりました。毎日の水やりと草取りに「育てるのがって大変なんだなあ」と小さく呟きながら取り組んでいる人もおり、子どもたちなりにたくさんのことを感じながら栽培に取り組んでいることに嬉しい気持ちになりました。

当番の仕事をした後には、「お知らせの時間」をもつようになっています。他のグループがお知らせを始めると、じっと耳を傾けて話を聞いています。パトロールでは仕事が多く、やったことを覚えられないと困っていたグループがありました。すると、「紙に書いてもいい」と提案してくれる人が現れ、みんなでやったことを書いてお知らせすることにしました。メモを見ながら無事にお知らせの時間にグループでやったことをお知らせすることができる、自分たちの仕事を終えた達成感を感じているようでした。当番活動の中で、自分の役割に責任をもち、やりきろうとする姿がとても頼もしく見えました。

当番の仕事を通して、自分たちで生活を作っているという気持ちを少しずつ感じている様子の3組さん。子どもたちが生活する中で気付いたことを取り入れ、楽しみながら今の3組らしい生活を作っていけるようにしたいと思っています。